平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月7日

上場会社名　ケンコーコム株式会社　　上場取引所　東
コード番号　3325　URL　http://www.kenko.com
代表者　（役職名）代表取締役　（氏名）後藤　玄利
問合せ先責任者（役職名）グループ統轄本部長　（氏名）橋元　克巳　TEL 092-737-0824
四半期報告書提出予定日　平成23年11月11日
配当支払開始予定日　—
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　（機関投資家、アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	8,483	33.5	△434	—	△456	—	△482	—
23年3月期第2四半期	6,356	△0.9	△86	—	△96	—	△116	—

（注）包括利益　24年3月期第2四半期　△489百万円　（—%）　23年3月期第2四半期　△122百万円　（—%）

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△12,008.49	—
23年3月期第2四半期	△3,555.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	4,515	1,408	30.8
23年3月期	4,294	1,502	34.6

（参考）自己資本　24年3月期第2四半期　1,389百万円　23年3月期　1,484百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00			
24年3月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,654	34.0	△390	—	△442	—	△473	—	△11,789.07

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） ： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期2Q	40,735 株	23年3月期	33,255 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	459 株	23年3月期	459 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年3月期2Q	40,153 株	23年3月期2Q	32,772 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 3
４．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（５）セグメント情報等 …… 10
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 11

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、３月に発生した東日本大震災からの復旧とともに企業の生産活動や個人消費は回復の兆しを見せる一方で、原子力発電所の事故や欧州の金融不安を背景に長期化する円高の進行などの影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境の中、当社グループでは昨年から引き続き、健康関連Ｅコマース業界でのポジションを確固たるものとするため、売上高の成長を再加速させることを最優先に取組んでまいりました。また、東日本大震災以降、ミネラルウォーターや非常食等ライフラインを支える分野での商品需要が一時的に急増したため、ライフライン企業としての努めを果たすべく商品の安定供給等に取組みました。一方、需要拡大期は新規顧客を獲得する機会でもあると、前期末引き下げた送料無料ラインの継続や、取り扱い商品数の拡充、ミネラルウォーターの積極販売、キャンペーンの多用、といった施策を打ち出しました。その結果、出荷件数及び顧客数が急増し、売上高を大幅に伸ばすことができました。

しかしながら、利益面におきましては、これらの施策によって受注単価が下落したことに伴う利益率の低下、本社機能一部移転に伴う一時的費用の増加、８月30日に開示いたしました特定商品およびその他の商品の過剰在庫にともなう損失、また中国事業準備に伴う先行投資などの影響により赤字となりました。

これらにより、当第２四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高8,483百万円(前年同期比33.5％増)、営業損失434百万円(前年同期は営業損失86百万円)、経常損失456百万円(前年同期は経常損失96百万円)、四半期純損失482百万円(前年同期は四半期純損失116百万円)となりました。

今後、当社といたしましては、売上高を継続的に成長させるとともに仕入原価および物流関連費用等の変動費の削減を中心に利益率の改善に取組んでまいります。特定商品の過剰在庫についても在庫処理の目処が立っており、また福岡オフィス開設等の施策に伴う一時的費用も減少いたしますので、第３四半期以降は損益は好転する見通しとなっております。

セグメントの業績は以下の通りです。なお、第１四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載するセグメントを変更しており、前第２四半期連結累計期間との比較・分析は、変更後の数値によっております。

「リテール事業」

リテール事業では、主にインターネット上の健康ＥＣサイトを通じて、健康関連商品を一般消費者向けに販売しております。

平成23年９月末現在の取扱商品数は15万886点(Kenko.com Singapore Pte. Ltd.取扱商品を除く)となり、過去最高となりました。さらに、前期末引き下げた送料無料ラインの継続や、ミネラルウォーターの積極販売、キャンペーンの多用といった施策を進めた結果、出荷件数193万件（前年同期比74.6％増）と急増し、当第２四半期連結累計期間におけるリテール事業の売上高は7,539百万円(前年同期比33.1％増)となりました。

「ドロップシップ事業」

ドロップシップ事業では、小売事業者向けに健康ＥＣプラットフォーム機能を提供しております。

当第２四半期連結累計期間は、中・小規模事業者の売上が伸びました結果、売上高は675百万円(前年同期比5.3％増)となりました。

「ドラッグ・ラグ是正支援事業」

ドラッグ・ラグ是正支援事業では、日本の新薬承認の遅延(ドラッグ・ラグ)の是正のため、医師の要望により医薬品の輸入支援を行っております。

着実に取扱品目及び売上高を成長させたため、当第２四半期連結累計期間の売上高は224百万円(前年同期は５百万円)となりました。

「その他の事業」

その他の事業では、メーカー・卸向けに商品の広告掲載やブランディング・プロモーション支援等を行うメディア事業等を行っております。

メディア事業の売上高が東日本大震災後の広告自粛の影響を受けたため、当第２四半期連結累計期間のその他の事業の売上高は43百万円(前年同期比2.8％減)となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて221百万円増加し、4,515百万円となりました。これは主に、商品及び売掛金等の流動資産が増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて314百万円増加し、3,107百万円となりました。これは主に買掛金及び未払金の増加によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて93百万円減少し、1,408百万円となりました。これは増資に伴う増加と四半期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少によるものです。

キャッシュ・フローの状況については次のとおりであります。

当第２四半期連結累計期間における現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末より294百万円減少し、424百万円となりました。

「営業活動におけるキャッシュ・フロー」は523百万円の支出（前年同期は８百万円の収入）となりました。主な減少要因は、税金等調整前四半期純損失464百万円及び売上債権の増加295百万円、たな卸資産の増加278百万円であります。

「投資活動におけるキャッシュ・フロー」は20百万円の支出（前年同期は89百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得20百万円によるものであります。

「財務活動におけるキャッシュ・フロー」は257百万円の収入（前年同期は288百万円の収入）となりました。主な増加要因は株式の発行による収入392百万円であり、主な減少要因は長期借入金の返済による支出191百万円であります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成23年９月30日に公表いたしました通期の連結業績予想を変更しておりません。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度および当第２四半期連結累計期間において、多額の営業損失、経常損失、当期（四半期）純損失を計上しており、また、営業活動によるキャッシュ・フローもマイナスとなっております。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は存在しておりますが、以下に記載の対応策を実施することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

売上に関しましては、ミネラルウォーター等の積極的な販売によって急増した当社グループ顧客に対し、当社の健康ＥＣサイトで販売する商品点数を増加させて新たな価値の提案を行うことにより、今後の受注件数のさらなる増加を図ります。さらに、新たな販売チャネルを拡充することにより、顧客接点の多様化に対応します。

費用に関しましては、ミネラルウォーターの過剰在庫が解消される目処がついており、これに伴って増加していた商品保管料などの各種費用も今後は削減される見込です。さらに、今後も物流拠点の統廃合や、出荷業務の効率化を推し進めることにより、物流費用の削減を図ります。また、福岡オフィスの開設や物流センターの移転、システムのクラウド化等の施策により当第２四半期連結累計期間において一時的費用は発生しましたが、今後はこれらの施策による固定費の削減効果が具現化することが期待されます。以上の売上拡大策と費用削減策を実施することにより、黒字転換を図ってまいります。

在庫に関しましては、通常商品については発注点を適正にコントロールすることにより、在庫の圧縮を進めてまいります。また、輸入ミネラルウォーターのように調達のリードタイムが長い商品については、従来の反省を踏まえた販売計画および発注計画を策定し、この計画に従った発注を行うことで在庫過剰とならないよう管理します。以上のような在庫管理を行うことによって、営業活動によるキャッシュ・フローの改善を図ってまいります。

４．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	719,454	425,029
売掛金	842,677	1,138,196
商品	1,143,222	1,422,102
貯蔵品	13,293	13,092
その他	122,480	131,715
貸倒引当金	△23,623	△32,466
流動資産合計	2,817,506	3,097,670
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	977,137	970,708
減価償却累計額	△256,979	△251,903
減損損失累計額	△19,320	△4,207
建物及び構築物（純額）	700,837	714,597
機械装置及び運搬具	22,305	23,805
減価償却累計額	△15,079	△16,024
機械装置及び運搬具（純額）	7,226	7,781
工具、器具及び備品	546,996	446,209
減価償却累計額	△410,870	△336,052
減損損失累計額	△33,118	△18,497
工具、器具及び備品（純額）	103,007	91,660
リース資産	138,873	166,848
減価償却累計額	△36,615	△45,196
減損損失累計額	△50,060	△50,060
リース資産（純額）	52,197	71,591
建設仮勘定	499	499
有形固定資産合計	863,769	886,130
無形固定資産		
ソフトウエア	427,641	361,070
ソフトウエア仮勘定	26,488	19,437
リース資産	20,560	30,099
その他	2,606	2,521
無形固定資産合計	477,297	413,128
投資その他の資産		
投資有価証券	9,200	9,576
差入保証金	123,212	106,652
その他	3,748	2,704
投資その他の資産合計	136,160	118,933
固定資産合計	1,477,227	1,418,192
資産合計	4,294,734	4,515,862

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,081,848	1,269,787
短期借入金	100,000	175,000
1年内返済予定の長期借入金	385,828	374,428
リース債務	32,442	40,884
未払金	339,051	565,201
未払法人税等	6,454	22,490
賞与引当金	501	889
ポイント引当金	10,296	11,787
本社移転費用引当金	37,511	5,753
倉庫移転費用引当金	13,293	－
システム移行費用引当金	9,318	1,657
その他	94,915	89,686
流動負債合計	2,111,462	2,557,567
固定負債		
長期借入金	581,802	401,288
リース債務	95,487	110,503
その他	3,891	38,042
固定負債合計	681,181	549,834
負債合計	2,792,643	3,107,401
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,064,817	1,261,541
資本剰余金	1,301,187	1,497,911
利益剰余金	△791,915	△1,274,097
自己株式	△83,968	△83,968
株主資本合計	1,490,121	1,401,387
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,052	△676
為替換算調整勘定	△4,106	△11,561
その他の包括利益累計額合計	△5,158	△12,238
新株予約権	17,128	19,312
純資産合計	1,502,090	1,408,461
負債純資産合計	4,294,734	4,515,862

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	6,356,483	8,483,916
売上原価	4,277,033	5,831,550
売上総利益	2,079,450	2,652,365
販売費及び一般管理費	2,166,036	3,087,186
営業損失（△）	△86,586	△434,820
営業外収益		
受取利息	258	112
受取配当金	60	60
破損商品等弁償金	2,979	5,322
その他	1,031	2,676
営業外収益合計	4,330	8,172
営業外費用		
支払利息	9,609	9,497
為替差損	4,923	19,284
その他	206	871
営業外費用合計	14,739	29,653
経常損失（△）	△96,995	△456,302
特別利益		
新株予約権戻入益	－	136
保険差益	610	1,027
特別利益合計	610	1,163
特別損失		
固定資産除却損	7,398	9,337
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,450	－
固定資産臨時償却費	6,407	－
その他	242	492
特別損失合計	18,498	9,830
税金等調整前四半期純損失（△）	△114,882	△464,968
法人税、住民税及び事業税	3,997	13,611
過年度法人税等戻入額	△4,622	－
法人税等調整額	2,270	3,601
法人税等合計	1,645	17,212
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△116,528	△482,181
四半期純損失（△）	△116,528	△482,181

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△116,528	△482,181
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△44	376
為替換算調整勘定	△6,235	△7,455
その他の包括利益合計	△6,279	△7,079
四半期包括利益	△122,807	△489,261
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△122,807	△489,261
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失（△）	△114,882	△464,968
減価償却費	149,825	132,791
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,450	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	1,059	8,843
賞与引当金の増減額（△は減少）	422	387
ポイント引当金の増減額（△は減少）	6,636	1,490
本社移転費用引当金の増減額（△は減少）	－	△31,758
倉庫移転費用引当金の増減額（△は減少）	－	△13,293
システム移行費用引当金の増減額（△は減少）	－	△7,660
受取利息及び受取配当金	△318	△172
支払利息	9,609	9,497
株式交付費	100	529
株式報酬費用	3,125	2,320
新株予約権戻入益	－	△136
保険差益	△610	△1,027
固定資産除却損	7,398	9,337
固定資産臨時償却費	6,407	－
売上債権の増減額（△は増加）	△34,757	△295,239
たな卸資産の増減額（△は増加）	△93,819	△278,678
仕入債務の増減額（△は減少）	52,982	187,939
前払費用の増減額（△は増加）	△13,357	4,236
未収入金の増減額（△は増加）	9,012	△1,461
未払金の増減額（△は減少）	27,460	232,580
未払費用の増減額（△は減少）	3,849	5,762
未払消費税等の増減額（△は減少）	△15,946	△21,492
その他	31,108	7,411
小計	39,753	△512,762
利息及び配当金の受取額	318	172
保険金の受取額	610	1,027
利息の支払額	△11,569	△9,231
法人税等の支払額	△20,619	△2,552
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,493	△523,346
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△25,368	△20,184
無形固定資産の取得による支出	△64,108	△18,018
貸付けによる支出	△2,000	－
敷金及び保証金の差入による支出	－	△16,486
敷金及び保証金の回収による収入	2,267	32,991
その他	102	916
投資活動によるキャッシュ・フロー	△89,106	△20,780
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	250,000	150,000
短期借入金の返済による支出	△200,000	△75,000
長期借入れによる収入	450,000	－
長期借入金の返済による支出	△145,533	△191,914
社債の償還による支出	△55,000	－
株式の発行による収入	372	392,919
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△11,521	△18,620
財務活動によるキャッシュ・フロー	288,317	257,384

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,090	△7,616
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	204,613	△294,359
現金及び現金同等物の期首残高	613,082	718,623
現金及び現金同等物の四半期末残高	817,695	424,263

（４）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（５）セグメント情報等
Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自平成22年４月１日　至平成22年９月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	リテール	ドロップシップ	ドラッグ・ラグ是正支援	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,664,589	641,645	5,466	6,311,700	44,782	6,356,483	－	6,356,483
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	5,664,589	641,645	5,466	6,311,700	44,782	6,356,483	－	6,356,483
セグメント利益又は損失（△）	71,434	11,565	△5,579	77,419	8,812	86,231	△172,817	△86,586

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディア事業等を含んでおります。
２．セグメント利益の調整額△172,817千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△172,817千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	リテール	ドロップシップ	ドラッグ・ラグ是正支援	計				
売上高								
外部顧客への売上高	7,539,694	675,956	224,740	8,440,391	43,525	8,483,916	－	8,483,916
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	7,539,694	675,956	224,740	8,440,391	43,525	8,483,916	－	8,483,916
セグメント利益又は損失（△）	△241,753	3,232	14,780	△223,740	10,851	△212,889	△221,931	△434,820

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディア事業等を含んでおります。
２．セグメント利益の調整額△221,931千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△221,931千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項
従来、「ドラッグ・ラグ是正支援」は、「その他」の区分に含めておりましたが、「ドラッグ・ラグ是正

支援」の重要性が増したため、第１四半期連結会計期間より「ドラッグ・ラグ是正支援」として区分表示しております。

なお、前第２四半期連結累計期間に係る変更後の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、「Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　平成22年４月１日　至　平成22年９月30日）」に記載しております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第２四半期連結累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日）

株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成23年４月４日付で、RSエンパワメント株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第２四半期連結累計期間において資本金が196,724千円、資本準備金が196,724千円増加し、当第２四半期連結会計期間末において資本金が1,261,541千円、資本準備金が1,497,911千円となっております。